



令和4年7月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年7月分について、輸出額は「自動車」などが減少したものの、「石油及び同製品」、「事務用機器」などが増加したことから、対前年同月比3.4%の増加となった。また、輸入額は「石油製品」などが減少したものの、「原粗油」、「アルミニウム及び同合金」などが増加したことから、同38.3%の増加となった。その結果、差引額は5,937億円（同17.8%の減少）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

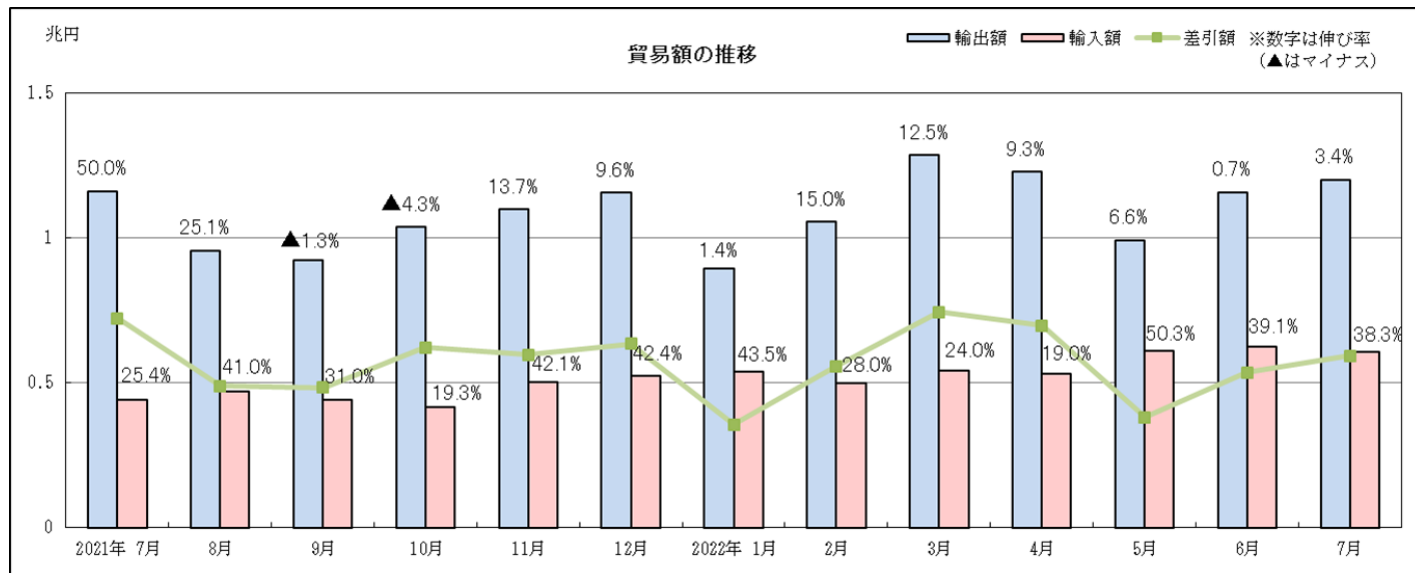
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆2,013億円	+3.4%	6,077億円	+38.3%	5,937億円	▲17.8%
	9ヵ月連続の増加		18ヵ月連続の増加		3ヵ月連続の減少	
管内（名港シェア）	1兆9,037億円（63.1%）		1兆1,441億円（53.1%）		7,596億円	（―）
全国（名港シェア）	8兆7,528億円（13.7%）		10兆1,896億円（6.0%）		▲1兆4,368億円	（―）

注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降134ヵ月（11年2ヵ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出	増（1）石油及び同製品	★ 114億円	+256.1%	+0.7	3ヵ月連続の増加
	加（2）事務用機器	190億円	+45.3%	+0.5	2ヵ月連続の増加
	減少（1）自動車	2,838億円	▲7.5%	▲2.0	2ヵ月連続の減少
輸入	増（1）原粗油	384億円	+129.4%	+4.9	4ヵ月連続の増加
	加（2）アルミニウム及び同合金	338億円	+64.1%	+3.0	19ヵ月連続の増加
	減少（1）石油製品	49億円	▲70.7%	▲2.7	2ヵ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。
名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。